



特別広告企画

豊かな老後へ まずは保険を見直そう

愛する家族を守り続けたい、誰しも思うことです。しかし、病気や事故で家族を残念ながら守りきれないこともあります。あつてはならないことですが、これは誰もが思う不安です。この不安を取り除いてくれるのが保険。もし、自分に、夫に妻になにかあつたときに、その愛の形を具体的に愛する人に残



経済ジャーナリスト・
ファイナンシャルプランナー
阪南大学講師
堀 浩司さん

ほり・ひろし | わかりやすいお金や税金、身近な経済の話を中心にテレビ、ラジオに数多く出演。その他、新聞各紙で記事の執筆を担当。阪南大学でも講師を務めており、実務でつちかわれた分かりやすい経済評論は、辛口ながらソフトな語り口で好評。

す。保険に入ることは自分も含めて愛する人がいる証ですね。

ちよつと照れ臭いことを書きましたが、人への思いやりの心が残念ながら希薄になっている現代の社会。自分の家族は自分で守らなければなりません。私も子ども四人を抱えていますので、保険がなければ不安で、力いっぱい仕事をすることもできません。

その子どもたちも今年の春、大学院と大学を長男、次男が卒業し社会人になりました。家に残つてくれているのは大学生の娘たち二人。私たちの世代が入った生命保険は保険金額が一定というのがほとんどでした。もし自分になにかあつたときに、家族を金銭的に守るのが生命保険です。子どもたちが社会人になり家族構成が変わっても、同じ保障額というのは変です。妻と子どもたち五人から三人へと変つていくわけですから、当然その保障額である保険金額も今までと同じである必要はありません。

家族を守ることがずっと続きます。従つて保険も長い期間かけ続けることとなります。この長い期間、ずっと同じ保険内容であることがおかしいのです。そこで必要となるのが保険の見直しです。

保険の見直しの前に、ひとつ確認です。保険証券を、最近見たことがあるか。契約の内容を決めている約款は確かに小さい字で細かく書かれており読みづらいのですが、証券自体はそれほどややくしくありません。年に一度くらいは手にとつて眺めてみると、いろいろなことに気づきます。保険の加入から十年以上経つていると世の中も変わっています。医療技術もどんどん進みます。また、平均寿命も延び、九十代までのライフプランを考えないといけない時代になりました。保険証券を眺めているだけで、時代に少しミスマッチしているなあと感じることもあります。

そして、これからの私たちの暮らしに必要なものがそろつているか、必要なものがないか。

二つ目は保険金額が適正か。家族構成が変わつていのにずっと据え置かれたままの保険金額。また、残された家族の生活費をある程度保険でカバーする場合、年々その保障額は減つていくはず。例えば、お子さんが社会人になるまでを考えた場合、(年間必要額×社会人になるまでの年数)という金額が必要な保険金額です。

三つ目がやはり月払い、年払いで払う保険料です。同じ保障内容でも最近では保険会社によって保険料が大きく異なつてきています。無駄な支払いは避けなくてはなりません。税理士という仕事もしている関係で皆さんの相続にかかわることが多々あります。「保険をかけてくれていてよかつた」という残された家族の方の声をもう何度も聞いています。大切な保険ですから無駄なく加入しなければなりません。

